

中国語学習の言語理解における日本語訳の精密さの
役割の早期実践
Early Practice of the Role of Precision in Translation into Japanese
in Language Comprehension of Chinese Language Learning

王 宇 清

福岡女学院大学 教職支援センター
教育実践研究 第8号 抜刷

(2024年3月)

中国語学習の言語理解における日本語訳の精密さの 役割の早期実践

Early Practice of the Role of Precision in Translation into Japanese in Language Comprehension of Chinese Language Learning

王 宇 清

【キーワード】

翻訳 言葉理解 言語理解 言語力 伝達力 中国語学習 中国語教育

はじめに

大学における第二外国語の中国語教育は大学によって、カリキュラムや授業の目標などが若干異なるが、基本的にリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの「4つのスキル」を効率的に身につけるという教育は一般的に実施されている。教育方法について、様々な教授法を開発、検証されている。学習者の目的、動機も多様化してきたことに応じて、実用性あるいは習慣性、時代性にふさわしい表現の重要性が高まってきている。外国語の学習に、言葉理解(Word Understanding)と言語理解(Language Comprehension)という概念がある。言葉理解とは、個々の単語や用語を理解する能力を指します、文脈に依存せず、単語自体の意味を理解する能力を指す。言語理解とは、言語学的な側面から、文法や語彙、文脈などを理解する能力を指す。言語理解は文法や意味の理解に関連し、言葉理解は単語の意味や使用方法に関連します。外国語学習における「4つのスキル」の言語力を獲得するためには、言葉理解から言語理解に求める。また、外国語を用いてより正確に情報を伝え、コミュニケーション能力も期待される。

授業目標

第二外国語の中国語の授業の目標は、ほとんどの大学では、週1回の授業を1年間受け、発音基礎を習得し、基本単語を覚え(言葉理解)、そして初級から中級レベルの文法(言語理解)を理解すること。

本教室の中国語学習において、言葉理解と言語理解をほぼ同時に教育実施し、初級中国語の授業に、通常の読解力の練習時期より早い段階にそのトレーニングを取り込み、学生に教材文章の音読をよくさせている一方で、文章の意味を理解させ、理解した内容を自分の言葉で述べる練習、

いわゆる日本語への翻訳の練習を実施した。特に初級レベルの中国語の授業を行う際には、リーディングとスピーキングの練習が主に取り込まれている。授業中、クラスメート同士を話し合い、より精密な日本語に訳せることで、中国語の言葉や文章の理解を究明する。一年生の前期と後期の授業でこの教授法を実施し、発音以外、文法の理解力、文書のまとめ力や表現力、さらに文化への好奇心も前期より顕著な効果が明らかに得られた。先生は「説明をする」役割から「説明を聞く」役割に転換し、学生を自立した中国語学習者に育て、「わかる」から「できる」への教育を目標とする。

実施方法

大学での第二言語教育においては、学生の学習意欲を引き出すことは大変重要な課題である。学生に中国語を面白いと感じさせるには、まずその内容を理解させるのが前提である。中国語の文章は漢字で成っているので、初級学習者にとって、語彙の勉強は最も重要なものとなる。したがって、筆者は新しい単元を学習する時、必ず単語から始めることにしている。新出単語の発音、意味、漢字の簡体字の書き方、そしてその単語の使い方（関連がある文法事項）をいかにやさしく、明確に説明するかが、重要なポイントになる。新出単語の日本語意味を理解と覚え、さらに文章の意味を「伝わらない」から脱却という目標で、中国語学習早期（初心者の週1回の授業、二、三ヶ月後）に文章翻訳と通訳の練習を取り込み、クラスで発表し、クラスメート同士理解し合い、適切な語彙を選び直して、より正確な理解に近づく。一年間4クラスの授業で、特に重視しているのは、学生に会話と文章を読むことと授業中その場で意味を理解し、自分の言葉で日本語に訳し、発表させる。学生の口頭表現のスキルの向上に、単語の理解と文書の説明をより精密的な、日本人らしい言葉でクラスメートに説明する。「精密さ」は、細かい部分まで注意を払い、物事を詳細に分析し、正確な情報やデータを使用して、高度な正確さを実現する能力や特性を示す。また、間違いや誤解を最小限に抑えるために、細心の注意を払うことも含まれる。

日本語と中国語は異なる言語体系を持ち、異なる文化的背景や表現方法が存在する。精密な翻訳によって、学習者は中国語の言葉の正確な意味やニュアンスを理解することができ、日本語の文法や表現方法を適切に理解することで、中国語の文法や表現方法との比較が容易になります。また、文化的背景や言語の特性に関する洞察を得ることもできる。将来正しい中国語を用いて、正確に情報を伝える力、いわゆる言語力を育成する。さらに、精密な翻訳は、学習者が誤解を避け、正確な情報を得るのに役に立つ。間違った翻訳や誤った理解は、学習の妨げになる可能性があり、正確な翻訳によって学習の効果が最大限に引き出されることが期待される。

以下の例を用いて説明する。

1. 你怎么还不回家？

学生の訳文：

- ① あなたはなぜ家に帰らないのですか。
- ② あなたはなぜまだ家に帰らないのですか。

中国語の文法に準じて、副詞「还」を精密に理解し、正確の翻訳は後者であることが分かる。

2. 我昨天看了一个很有意思的电影。

学生の訳文：

- ① 私が昨日見た映画は面白かったです。
- ② 私は昨日とても面白い映画一本を見ました。

中国語の文法に準じて、修飾語「一个」、「很有意思」を精密に理解し、正確の翻訳は後者であることが分かる。

3. 祝旅途愉快！

学生の訳文：

- ① いってらっしゃい！
- ② 楽しい旅を祈っています！
- ③ 良い旅を！
- ④ 良い旅を祈ります！

四つの訳文から、日本の文化習慣と中国の文化習慣の違いが見られる。同じ中国語文章に対して、中国語の文法に準拠しつつ、日本の会話習慣に合わせ、異なる日本語や表現で文章の意味を伝えることができた。

翻訳の精密さを求めるのは、学習者が言語理解の実践を通じてより効果的に学び、理解するのに不可欠な要素であると言えるのではないかと考えられる。情報伝える際、表現の多様性を理解し、言語の柔軟の使用法も身につけることが期待される。

結果

言語力を高めるために、語彙力や伝え方が大切と認識され、単語を覚えれば、語彙力を伸ばることができるが、相手にうまく伝えと限らない。相手に正確な情報を伝えるためには、または伝達力を養うためには、以下の一連の学習過程を経ることが重要です。まず、身に付けた語彙力を用いて異なる言語体系や文化的背景を理解します。次に、「伝えたい」というモチベーションを駆動力にして、情報の正確な内容を把握し、思考力や要約力を駆使して頭の中の考えをうまく言葉で表現します。最後に、母国語で情報を正確に伝えるためのトレーニングを行う。本教室で実践したトレーニングステップを図1にまとめた。

図1
相手に正確に情報を伝える力

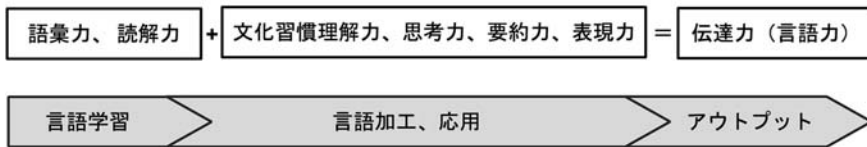


図1に示したよう、相手に正確に情報を伝える力を養うため、まず単語の発音と意味を理解し、語彙力と読解力を増やし、次、外国の文化習慣を理解し、言語の背景を察知、会話や文章の意味を理解し、合わせて文脈を把握し、日本の文化と会話習慣に準じて、日本語で情報を要約し、自分の言葉で相手に説明する。言語学習において、このような過程で、知識を身に付けられ、相手に正確に情報を伝える力を学習のアウトプットとして認められる。

実際授業中翻訳を行う際、説明が詰まったり、適切な日本語表現が見つからなかったりする事が時々現れた。その際、グループスタディーの機能を発揮し、周りの学生と一緒に考えて、より良い表現を見つけ出す。チームワークにより、表現力が高まり、話す自信が付けられ、そのうち、文章力も従って上達が見られた。半年の継続の実行で、自分の理解を日本語らしい言葉で伝えることができ、自分の言語力が伸びたと感じ、中国語を話すことに対する自信も付けられたとのフィードバックを得られた。

ただし、実施中、注意が必要なのは、翻訳が学習者にとっての手段であり、目的ではないということです。最終的な目標は、中国語を使って直接コミュニケーションを取ることであり、翻訳があくまで勉強法の一環、総合的な言語力向上するには、様々な工夫することが大切である。

結論

よって、本教室で日本語翻訳への早期取り込みで、日本語への翻訳の精密さは、中国語学習者が言葉理解と言語理解を向上させる上で重要な役割を果たすことが示唆された。その主な役割を以下のまとめる：

1. 文法構造の理解：翻訳を通じて学習者は、中国語の文法構造を日本語に適切に変換する方法を学ぶ。これが文法の理解を深め、言葉の正確な使い方を習得する手助けになる。
2. 文章内容の理解：文法構造を理解した上で、中国語語彙の正確な意味を日本語に訳し、文章の全体意味の理解を深める。
3. 文化的なニュアンスの把握：精密な翻訳は文化的なニュアンスも正確に伝える。中国語学習者は、異なる文化背景からくる表現や概念を理解するための手がかりを得ることができる。
4. 表現のバリエーションの学習：翻訳によって、同じ意味を持つが異なる言葉で表現される方

法を学べる。学習者同士ペアで翻訳し合い、それぞれの表現を学び合い、これが言葉のバリエーションを理解し、表現力を豊かにする要因となる。

5. 実践的なコミュニケーション能力：精密な中国語翻訳を通じて、学習者が実際の会話や文章を理解し、日本語に変換することで、実践的なコミュニケーションスキルが向上する。
6. 正確な意味の伝達：精密的な日本語への翻訳は、状況や環境に合わせ、言葉の意味や文脈を正確に伝えることができる。これにより、学習者は正しく単語、フレーズの理解や文法の使用能力を身に付けられ、言語学習の目標を達成できる。

授業当初、大半の学生が単位修得の目的で、とりあえず中国語を勉強してみようという気持ちで、授業に出席した学生が多かった。前期終了後、沢山の学生が中国語に興味を持つようになって、授業に対して満足している学生の割合も9割以上である。9割以上の学生は教員と学生間のコミュニケーションが成り立っていると認め、8割以上の学生が後期の授業を受け続けた。後期の授業を終え、8割の学生が次年度も継続履修希望する。そのうち2割の学生が中国語検定試験も受ける意志を示した。1名は全国中国語スピーチコンテストに入賞した。筆者が実際に用いる教授法は学生の学習意欲の向上には役に立ったと実証できた。

以上述べたように、授業中感じていた、「学生達に、中国語を発信する力を付けさせたい」、「学生達が自信を持って、将来中国語で自分の思いや考えを正確に伝えるようになって欲しい」という思いから、筆者が言語学習者にこの教授法を試した。中国語の学習において、中国語から日本語への翻訳が正確であるかどうかはいくつかの要因に依存する。一般的には、翻訳者の語彙力、読解力、考え力、表現力などが影響する。重要なのは、単純に言葉を置き換えるだけでなく、文脈やニュアンスも十分の考えが必要とする。直訳だけでは伝わらない表現もあり、相手に正確に情報を伝える力が問われる。

大学の第二外国語の中国語の授業に、中国語初級学習者に学習早期翻訳／通訳練習を取り入れる教授法は、筆者が教えている福岡女学院の第二言語として中国語履修した学生達から学習意欲、言語能力と伝達能力の良い効果が得られた。筆者としては、学生が中国語を通じて、自分の考えや意見などを生き生き話せるようになるため、今後、本中国語教授法を授業改善の試みとして共有し、さらに研究を加え、修正をするとともに、他の学年や他の中国語授業に取り組んで、より効果的に目標を達成できるように努めていく。この教授法が現在の大学における第二言語教育に少しでも役立つなら大変嬉しいことである。

参考文献

郭 春貴 大学における第2外国語の中国語教育の位置づけ 2007年 広島修大論集 第48巻

第 1 号 p.168-179